

2023年8月3日

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会 御中

コウノトリ育む農法の現状と課題



ToyookaAgRestart
代表 家元貴司

話題

- 1 ToyookaAgRestartの取組み
- 2 コウノトリ育む農法の現状と課題

話題

- 1 ToyookaAgRestartの取組み
- 2 コウノトリ育む農法の現状と課題



〈理念〉

ヒトとヒト、コトとコト、オモイとオモイをデアイでつなぐ。ToyookaAgRestart。

Toyooka

豊岡というローカルで、

Agri

農業の未来を信じ、

Restart

人と農業の関わりを、新しい形で提案・スタートする。

代表 家元貴司

代表 環境活動家家元貴司

<職歴>

1998年 中華そば店 弟子入り
1999年 中華そば店 経営(神戸)
2003年 豊岡市役所 農政、広報、イベント企画
2009年 横浜市役所 経済局ものづくりコーディネーター
2012年 東邦物産(株) 営業、食品流通、貿易、産地開発
2014年～ 豊岡市役所 販路開拓(国内外)、渉外、知財戦略

※全国の自治体初「輸出に取り組む優良事業者表彰」受賞。

2022年～ 豊岡市役所 地域づくり

<農業>所属自治体へ「営利企業等従事許可」申請済

兼業農家の長男として生まれ、本業と農業を両立させる両立農業を学ぶ。

1981年～ 稲作、畑作

2016年～ コウノトリ育む農法(無農薬)

2021年～ ToyookaAgRestart設立 代表就任

<専門スキル>

販路開拓、海外輸出、フードコーディネーター、お米アドバイザー、環境づくり(ビオトープ管理士)、食育

<その他所属>

豊岡市出石消防団 本部分団 分団長

Toyooka Riding Art 代表



〈活動内容〉

日本の空から一度絶滅したコウノトリを野生にかえしながら豊かな自然を育むため、人や自然、環境に優しいコウノトリ育む農法や自然農法で農産物を栽培しています。経営規模・収支計算上、現時点では農機が入手困難なため、ハンドメイドで農業に取り組んでいます。

日本の農地を支える農家の大半は兼業農家であるにも関わらず兼業農家の支援制度がほとんどないことから、日本の農業を未来へ繋いでいくため兼業農家が元気に活躍できる新たな社会づくりを提案します。地域の力を束ねて農業や日本文化を国内外へ伝えていきます。SDG'sを常に意識し、国が進める「みどりの食料システム戦略」のリーダーになり、活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。販売代金の一部を豊岡市コウノトリ基金へ寄付し、地域全体の共益につなげます。

活動メンバーは兼業農家と非農家で構成し、理念と活動内容に賛同いただける方を募集しています。

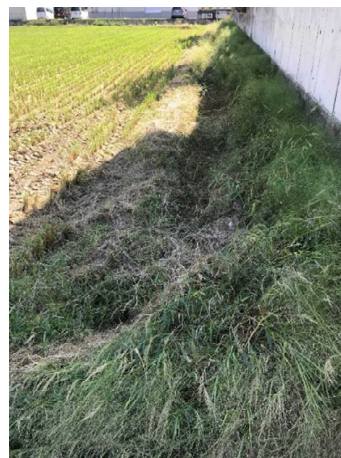
生産・販売	コウノトリ育む農法を中心とした自然栽培による農産物の生産(オーダー栽培)
	プロモーションの企画及び実施
	国内外販路開拓、ブランディング、通訳翻訳をサポート
	交流活動(消費者・国内旅行者・海外旅行者向け日本文化や農家体験)
	地域貢献活動(環境学習・食育)
	兼業農家の伴走支援「農ある暮らしの再発見」・半農半Xの実証

〈組織概要〉 構成員5名 2023年4月1日現在

代 表 家元貴司(生産者・お米アドバイザー・フードコーディネーター)

問合せ 090-6276-5009 toyooka.agrestart@gmail.com

1年中、生き物が生息できる環境づくり



稲の作付面積は減少してしましますが田んぼにビオトープを設置。

1年中、水を湛えるシステム。

農機、設備が不十分のため、手作業が多い。

1年中、生き物が生息できる環境づくり



本田より水路(ビオトープ)のレベルを下げ、高低差をつける。営農で必要な中干し等、落水してもビオトープには1年中、水がたまるように設計。

水田内にビオトープを設置したスタイルのコウノトリ育む農法を共同実証中。

ビオトープを設置した冬みず田んぼ



自然降水・雪のみで水を湛える

環境学習・消費者交流



地域の子供会と連携して生きもの調査を実施。好奇心の発達に貢献



田植え交流や稲刈り交流を実施し、国内外のファンを拡大。

コウノトリ共生と営農の両立



巣立ち直後の幼鳥コウノトリが防獣ネットに絡まないよう網目の細かなネットに変更。



有機栽培の課題である除草作業は、メンバー総出で実施。



稲刈り交流



稲刈り交流





海外輸出



Toyooka AgRestart

Sứ mệnh

Liên kết con người và con người, công việc với công việc, tâm lòng và tâm lòng

Toyooka

Tại quê hương/địa phương (Tp. Toyooka)

Agri

Tin tưởng về tương lai tốt đẹp của ngành Nông nghiệp

Restart

Kết nối lại con người và nông nghiệp, thiên nhiên

Tôi đặt tên AgRestart vì tôi muốn thể hiện quan hệ mới của con người và nông nghiệp, thiên nhiên.

Trường đại diện Iemoto Takashi











VƯỜN RAU HỮU CƠ

TRƯỜNG THCS PHU THOÀN B



Seed to Table

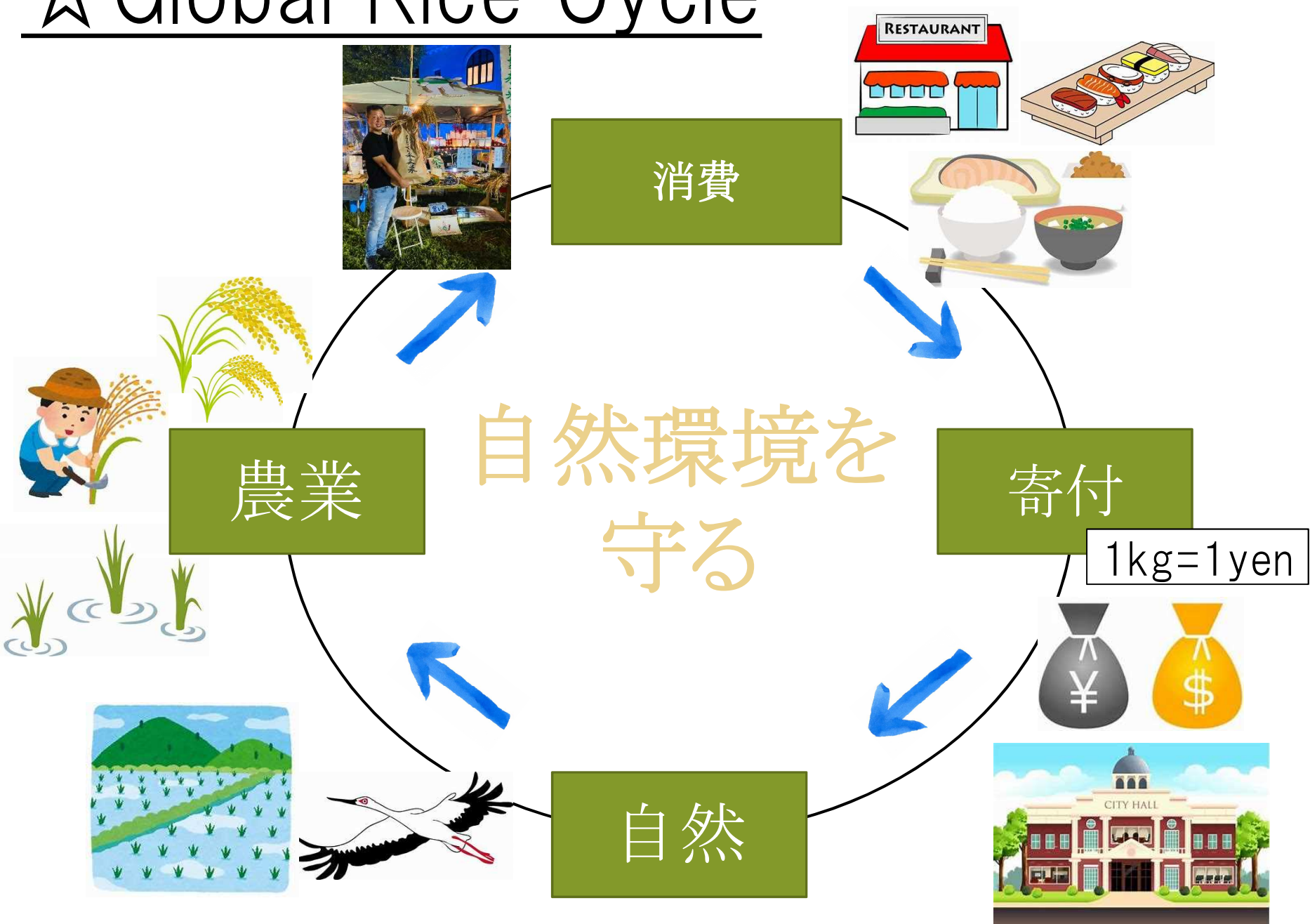


From the People of Japan





☆Global Rice Cycle





移住者と地域が関わるきっかけづくり ～地域と協働して里山再生に取り組む～



④田植え交流会で田植え機運転に参加する子どもたち（手前）



休耕地を「交流の田」に

豊岡・但東 市民と地域つなぐ

兼業農家と非農家の豊岡、養父の市民らでつくる農業支援グループが、山あいにある豊岡市但東町西谷地区の休耕地を青々とした田んぼに復活させた。住民の協力も得て付加価値の高い有機栽培米を育て、誰もが農業と自然に親しめる「交流の田んぼ」としても活用する。

【浜本年弘】

「山から車が迫ってくる」。西谷地区で農会長を務める川戸さん（68）は休耕地が増え、山と集落との境界がなくなる光景が気になっていた。京都府境に近い20戸ほどの集落は標高200～400級の山々に囲まれていた。水をたためていた田んぼは、山際から徐々に休耕地に姿を変え、ススキやチガヤに覆われていた。

農業支援グループ 有機栽培米で付加価値も

復活に動いたのは、西隣の豊岡市石臼町の市職員、家元さん（44）が代表を務める農業支援グループ「TovookaAgrestar」だ。二トヨオカアグリスターグループの設立を担った家元さんは、かつて親から農地を引き継いだものの、一から手探りで取り組む事態に直面した。一方で父親の背中を見て農業は楽しいと思ってきた家元さんもある。そんな経験を生かして、本業の両立を考えた。2021年に作ったメンバー6人と種まきバーを合わせた約35人が参加の知識や技術、農機具の扱い方などの普及に携わる。

今回の西谷地区での取り組みは22年の年の暮れ、地権者からの相談がきっかけだった。休耕地は1枚1区画あたりの10坪に満たないため、家元さんは2枚を一緒に管理する方針を固めた。その上で、水管理の効率化なども考慮し、当面は隣接する10枚を対象に「コシヒカリ」を育て、付加価値を高める栽培経験を抽出する計画を立てた。収穫した米は県市からの認定された独立ブランド「二トヨオカアグリスター」米として販売できる。



休耕地の耕作準備に取り組む家元代表

「TovookaAgrestar」代表

二トヨオカアグリスター（tovooka-agrestar@gmail.com）

2023年6月14日
毎日新聞掲載

話題

1 ToyookaAgRestartの取組み

2 コウノトリ育む農法の現状と課題

現状

＜市場的＞

- ・但馬は産地であり、地産地消の維持拡大はできない

＜農業的＞

- ・農業従事時間の確保が難しい

＜工業的＞

- ・農業機械が整わない
- ・兼業農家にスマート農業は不可能

＜経営的＞

- ・農業収支の赤字を本業収入で補填

課題

< 市場的 >

- ・多少高くても買い支える機運を醸成(地域内)
→行政の協力も。

< 農業的・工業的 >

- ・共同利用の促進

< 経営的 >

- ・取組み規模に応じた支援メニューを。
- ※休耕地活用、組織化に対する条件に応じて

< その他 >

- ・行政側も「兼業農家」の機能、役割、現状を把握し、寄り添い方を研究してほしい
→半農半Xのモデル実証を一緒にしませんか？